

『税金がある意味』

足立区立蒲原中学校 三年五組 福島 穂乃華

税金の存在を知ったのは、小学校低学年の頃だ。スーパーで買い物をしているときに値札の横に「税抜」と「税込」という文字が書かれていることに気が付いた。一つの商品に二つの値段があることを疑問に思い、母に尋ねてみると「税金」というものがある関係していることを教えてもらった。

令和元年に消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。一部の商品は八パーセントのままだったが、その消費税の引き上げには反対の声が多かった。私も買い物をしたとき、元の値段の十パーセントも消費税を払わなければならぬのか、と少し気分が下がったことがある。たった二パーセントの違いだが、桁が増えるにつれ比例して消費税も高くなるため、二パーセントでも経済に大きな影響を与えることを学んだ。

一人一人の支出が増え、生活が苦しくなる人がいるのにもかかわらずなぜ増税するのだろうか。そこで、消費税がなくなると私たちの生活にどのような影響があるのか考えた。

令和五年度の国の一般会計歳入のうち、消費税は全体の二十パーセントの約二十三兆四千億円である。令和五年度の国の一般会計歳出の総額は一般会計歳入の総額と同じであるため、消費税がなくなるということは、一般会計歳出のうちの二十パーセントが払えなくなるということだ。国の歳出の内訳には「文教及び科学

振興費」というものがある。これは、教育や科学技術の発展に使うための費用だ。今は教科書は税金により無償で配布されているが、消費税がなくなると文教及び科学振興費のうち二十パーセントもなくなってしまうため、教科書を全国に配布できなくなると考えられる。また、国の歳出の内訳には健康や生活を守るための「社会保障関係費」がある。消費税がなくなり社会保障関係費が二十パーセント減ってしまえば、十分な年金支給ができなくなったり、医療費が足りなくなったりしてしまう。また、今生活に困っている人は更に生活が困難になり、貧富の差が開いてしまうのではないだろうか。

今までニュースや新聞を見て、増税反対の声が多く増税することにあまり良い印象を持っていなかったが、今ある税金は全て私たちが健康に、安全に生活するために必要なお金だということが分かった。そして私も税金の恩恵を受けているのだと改めて感じた。今は私はお金を稼ぐことはできない。しかし、将来自分の力で稼ぎ税金を納められるようになったときにここで調べたことを思い出し、感謝を込めながら払いたい。そして無条件に増税反対を訴えるのではなく、自分で考えてから発言する大人になりたい。